

第2章 沼津市の現状

1 概 況

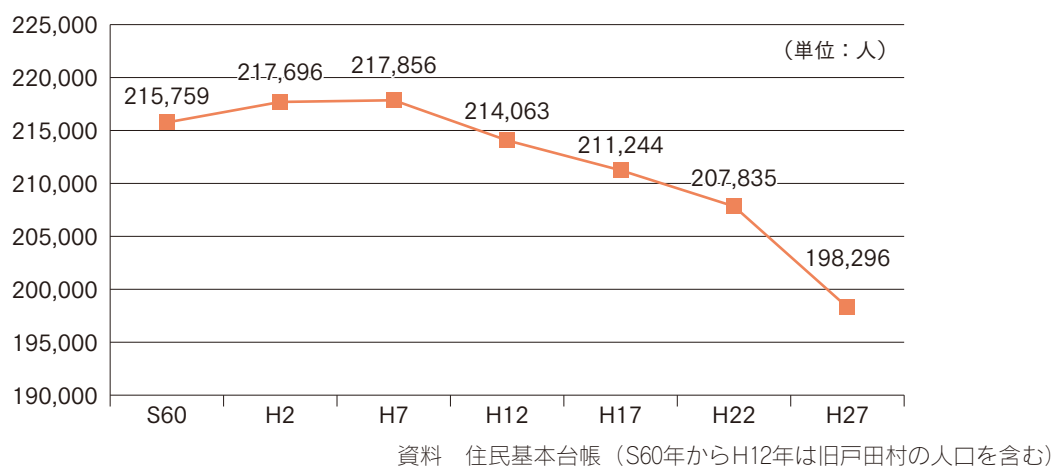
2 男女共同参画の状況

1 概 況

(1) 人口の現状分析

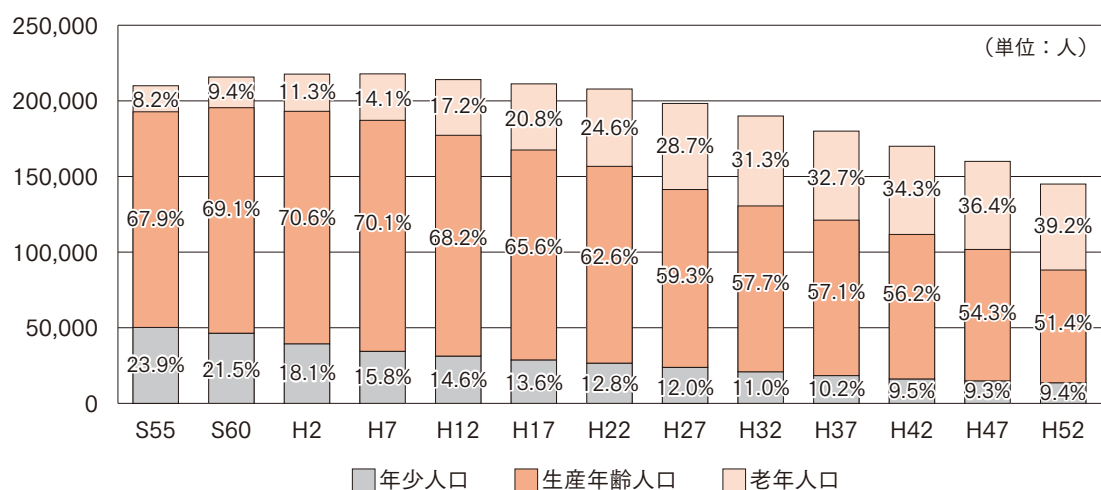
本市の人口は、平成7年をピークに減少に転じ、平成27年には198,296人と、20年間で約9.0%減少しています。

図1 総人口の推移



年少（14歳以下）、生産年齢（15～64歳）、老年（65歳以上）の3区分による人口推移（平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計）をみると、生産年齢人口は減少傾向にある一方で、老年人口は増加傾向にあります。

図2 年齢3区分率の推移



資料：「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

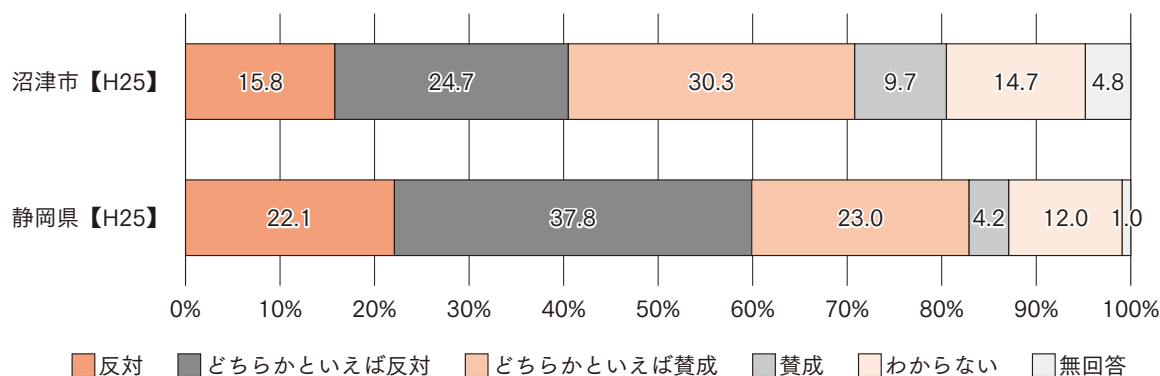
2 男女共同参画の状況

(1) 性別役割分担意識の状況

「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方（性別役割分担意識）について、静岡県、沼津市における意識調査の結果を比較すると、「反対」「どちらかといえば反対」の合計は県59.9%、市40.5%となっています。一方、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計は県27.2%、市40.0%となっています。

性別役割分担意識は、県と比べて本市は根強く残っており、男女共同参画に関する意識を高め、定着させるための広報・啓発が必要です。

図3 男女の役割を固定的に考えることについて

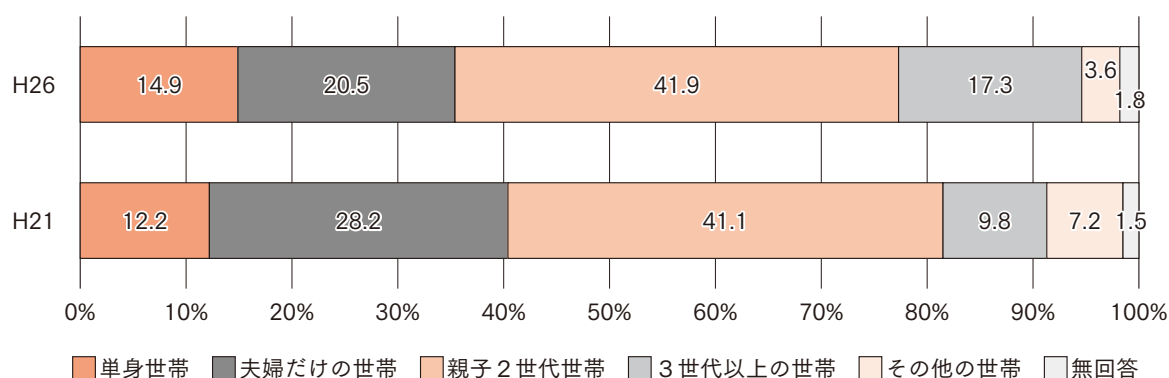


資料 沼津市「市民意識調査」(H25)・静岡県「男女共同参画に関する県民意識調査」(H25)

(2) 家庭における状況

平成26年度に実施した市民アンケート（アンケート概要は資料編P57・58を参照）の回答者の世帯構成を前回（平成21年度）と比較すると、単身世帯が14.9%と2.7ポイント増加し、単身世帯化が進行していること、単身世帯同様に長期的に増加傾向にあった夫婦だけの世帯の減少、3世代以上世帯の増加など家族構成の推移にも変化が見られます。

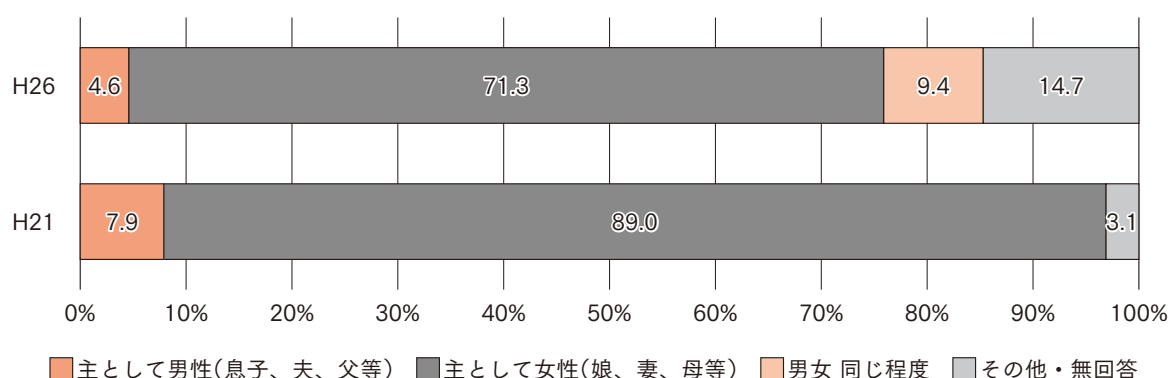
図4 世帯構成について



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H21・H26)

家庭における女性の家事（食事の支度・片づけ、洗濯、掃除）の負担については、いずれも70%以上の世帯で女性が担当していますが、主として女性が担当する割合は、前回（H21）と比較して今回（H26）は減少しています。

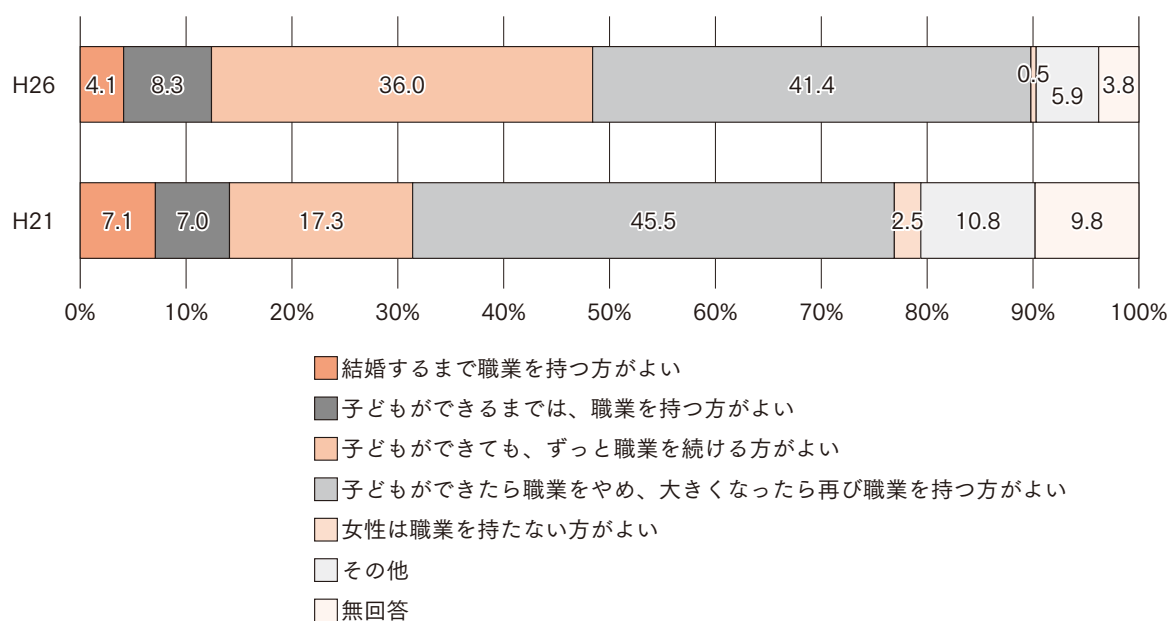
図5 家庭における家事分担について



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H21・H26)

女性が職業を持つことについては、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した人は、41.4%と4.1ポイント減少しているのに対し、「子どもができてずっと職業を続ける方がよい」と回答した人が36.0%と18.7ポイント増加しており、出産や育児にかかわらず女性の就業継続を望む声が少しずつ大きくなっていることがわかります。

図6 一般的に女性が職業を持つことについてどう思うか



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H21・H26)

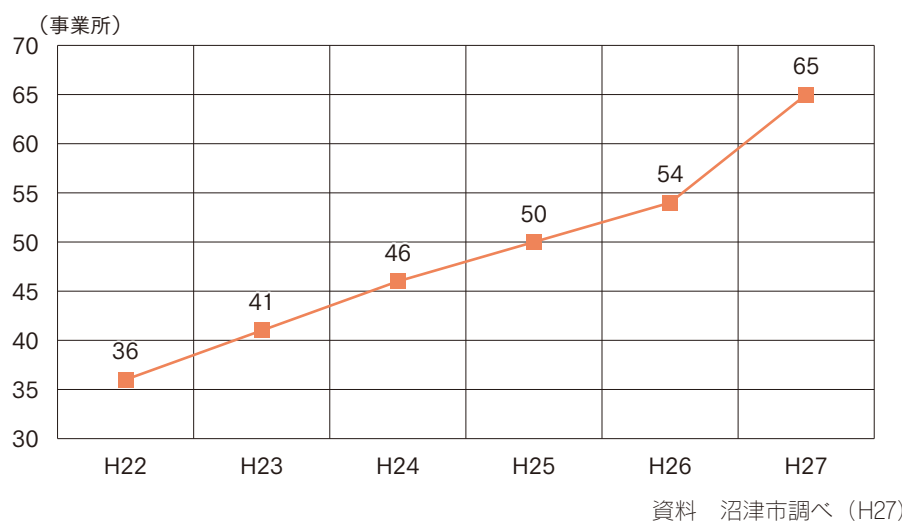
家庭において、女性だけが仕事を続けながら家事・育児・介護を担うことは大きな負担であり、女性が希望どおりに仕事を持ち、家庭と両立するためには、女性も男性も仕事と家庭を両立できるようにし、家族の一員としての役割や責任を家族全体で分かち合うことが必要です。

(3) 職場における状況

仕事と生活を両立しやすい職場環境は、働く人にとって自分らしいライフスタイルを実現しやすくなると同時に、事業者にとっては有能な人材の確保と定着、就業意欲の向上などが期待できます。

本市では、ワーク・ライフ・バランスの推進のため、平成20年度から、男女が働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる市内事業所を、「沼津市男女共同参画推進事業所」として認定し、これまでに65事業所（平成27年度末現在）を認定しました。

図7 男女共同参画推進事業所の認定数（累計）の推移



推進事業所におけるワーク・ライフ・バランスに関する取り組みは年々進むものの、実際の職場では、男性の育児及び介護休業の取得率が低いことが課題となっています。

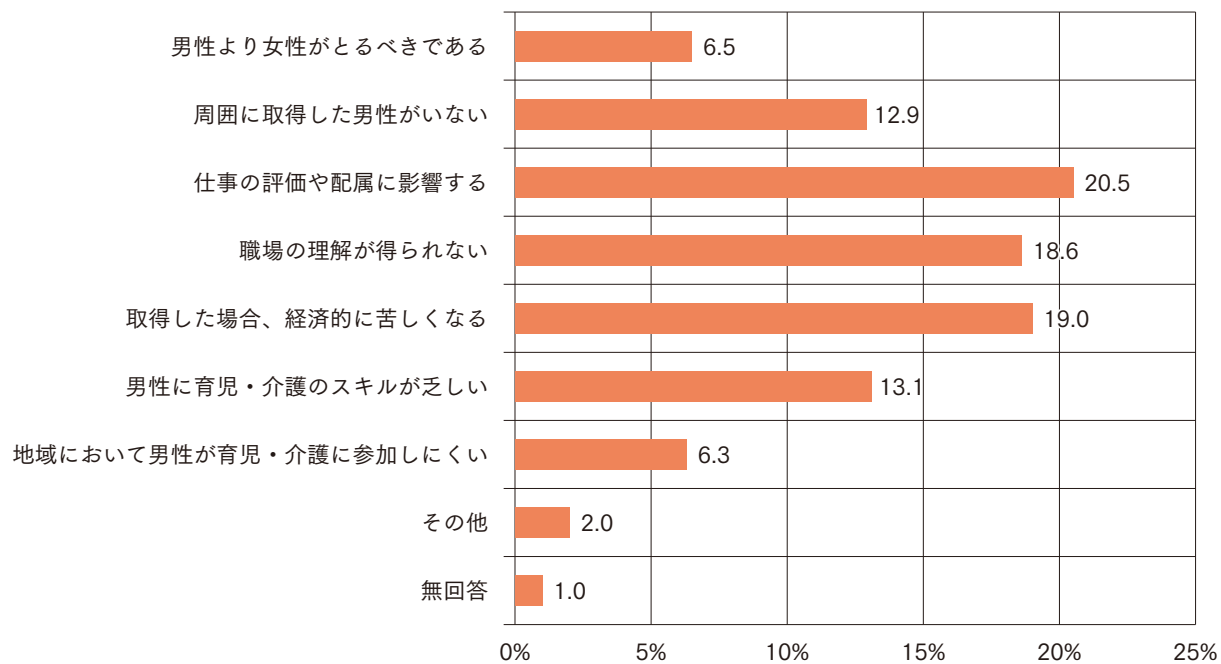
表1 育児休業取得率

女 性	86.6%
男 性	2.3%

資料 厚生労働省「雇用均等基本調査」（H26）

市民アンケートの結果、男性の育児・介護休業取得率の低い理由として、「仕事の評価や配属に影響する」が20.5%、「取得した場合、経済的に苦しくなる」が19.0%、「職場の理解が得られない」が18.6%となっており、更なる制度改革や意識改革を講じていく必要があります。

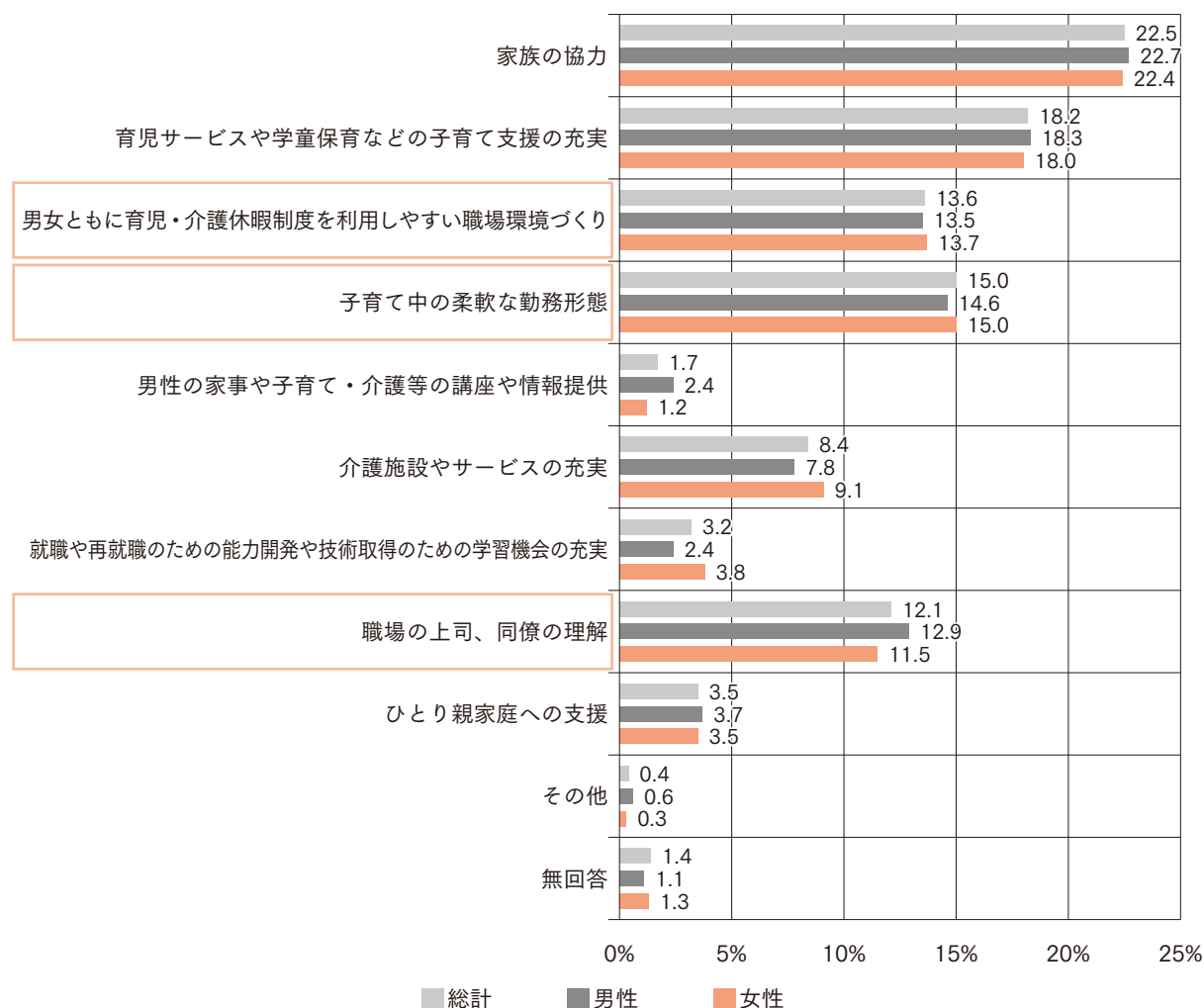
図8 男性の育児休暇・介護休暇の取得率の低い理由



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H26)

女性が働き続けるために必要な支援・改善のうち、職場に関するものについては、「子育て中の柔軟な勤務形態」が15.0%、「男女ともに育児・介護休暇制度を利用しやすい職場環境づくり」が13.6%、「職場の上司、同僚の理解」が12.1%でした。

図9 女性が働き続けるために必要な支援・改善



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H26)

こうした状況を踏まえ、引き続き、市内事業所に対して、育児・介護を理由とする休暇・休職を利用しやすい環境を整えるなどの、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを促してまいります。

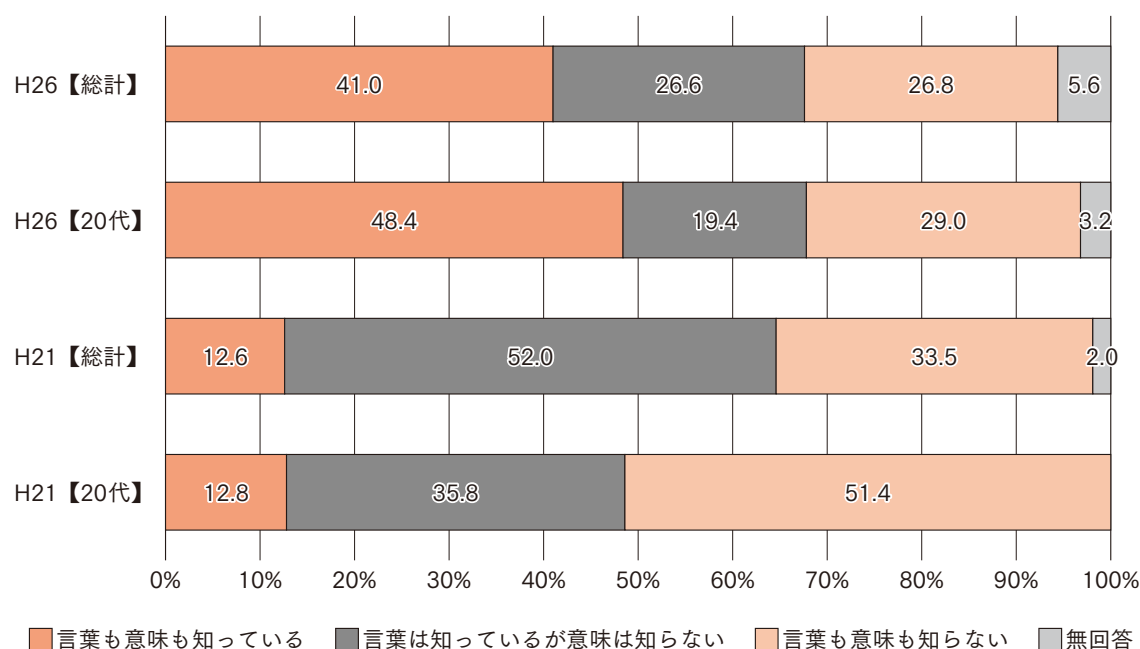
(4) 教育の場における状況

男女共同参画の推進を図るうえで、次世代を担う子どもたちの男女共同参画意識を育むための環境づくりは、大変重要なことです。

本市では、男女共同参画意識の醸成を図るため、平成22年度から、市内小中学校において、様々な職業への興味と関心を高め、性別に関係なく将来の夢や仕事を思い描く学習を支援する「職業講話」を実施しています。

市民アンケートの結果、「男女共同参画社会」という言葉の理解度について、「言葉も意味も知っている」と回答した人は、20代を中心に大幅に増加しており、教育の場における取り組みは一定の効果を挙げていると考えられます。

図10 「男女共同参画社会」の用語の理解



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H21・H26)

教育の場において、更なる男女共同参画の推進を図るためには、児童・生徒に対する学習機会の確保のほか、教職員による性別にとらわれない進路指導・就職指導の徹底が求められています。

特に男女の身体的特徴の違いを理解しつつ、互いの人権を尊重する教育は、人生の様々な場面で相手を思いやり、尊重し合い、助け合って生きていくための大切な教育です。

(5) 地域における状況

男女共同参画社会を実現するためには、地域における男女双方の主体的な参画が重要です。

しかし、自治会活動、PTA活動に女性の参加が増加してきていますが、組織を代表する立場や意思決定の場には男性が就く割合が高いという実態もあり、固定的な性別役割分担意識がいまだに根強く残っている状況がみられます。

表2 女性の公職登用状況

	県総数（人）		うち女性数（人）		女性比率（％）	
		沼津市		沼津市		沼津市
自治会長	4,698	296	68	8	1.4	2.7
公立小学校PTA会長	502	23	39	3	7.8	13.0
公立中学校PTA会長	262	18	17	4	6.5	22.2

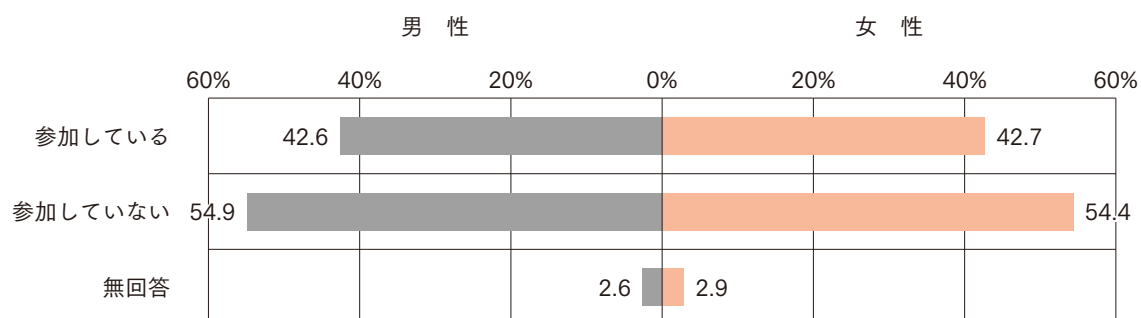
資料 静岡県調べ（H27）

本市では、地域における意識改革を図るため、平成21年度から「沼津市男女共同参画推進モデル地区事業」の取り組みを進めており、これまで第五地区のほか3地区において、地域の行事をはじめとする地域運営の全般における男女共同参画を推進してきました。

なお、門池地区については、多様性に配慮した地域防災に係る男女共同参画についての取り組みを進めました。

市民アンケートの結果、社会や地域活動に参加している市民の状況は、男性42.6％、女性42.7％でした。

図11 あなたは社会や地域の活動に参加していますか

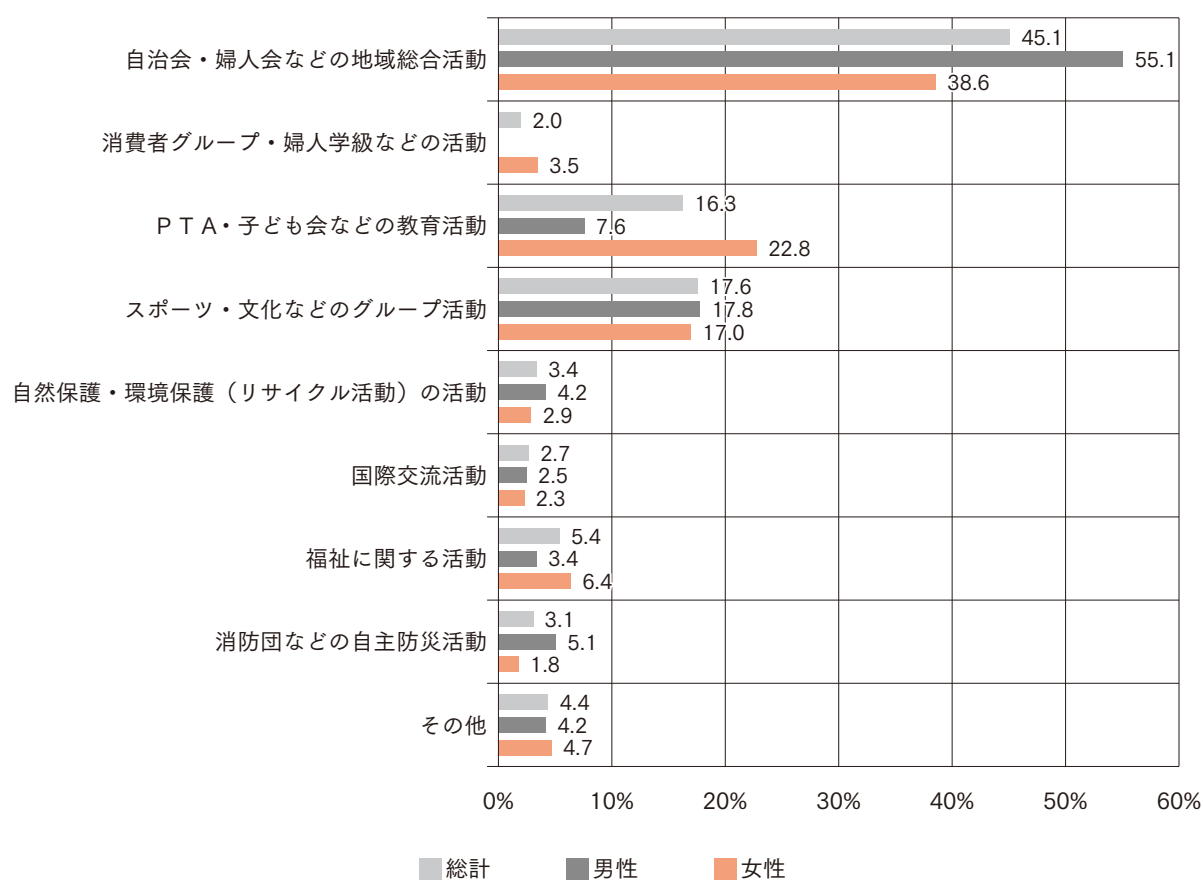


資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」（H26）

どのような活動に参加しているかとの設問については、自治会・婦人会などの地域総合活動が45.1%、スポーツ・文化などのグループ活動が17.6%、PTA・子ども会などの教育活動が16.3%でした。

性別ごとの割合をみると、グループ活動においては男女ほぼ同率であるものの、地域総合活動は男性55.1%であるのに対し、女性は38.6%、PTA・子ども会などの教育活動は男性7.6%であるのに対し、女性は22.8%であり、地域活動の内容により、参加の割合が男女で異なっています。

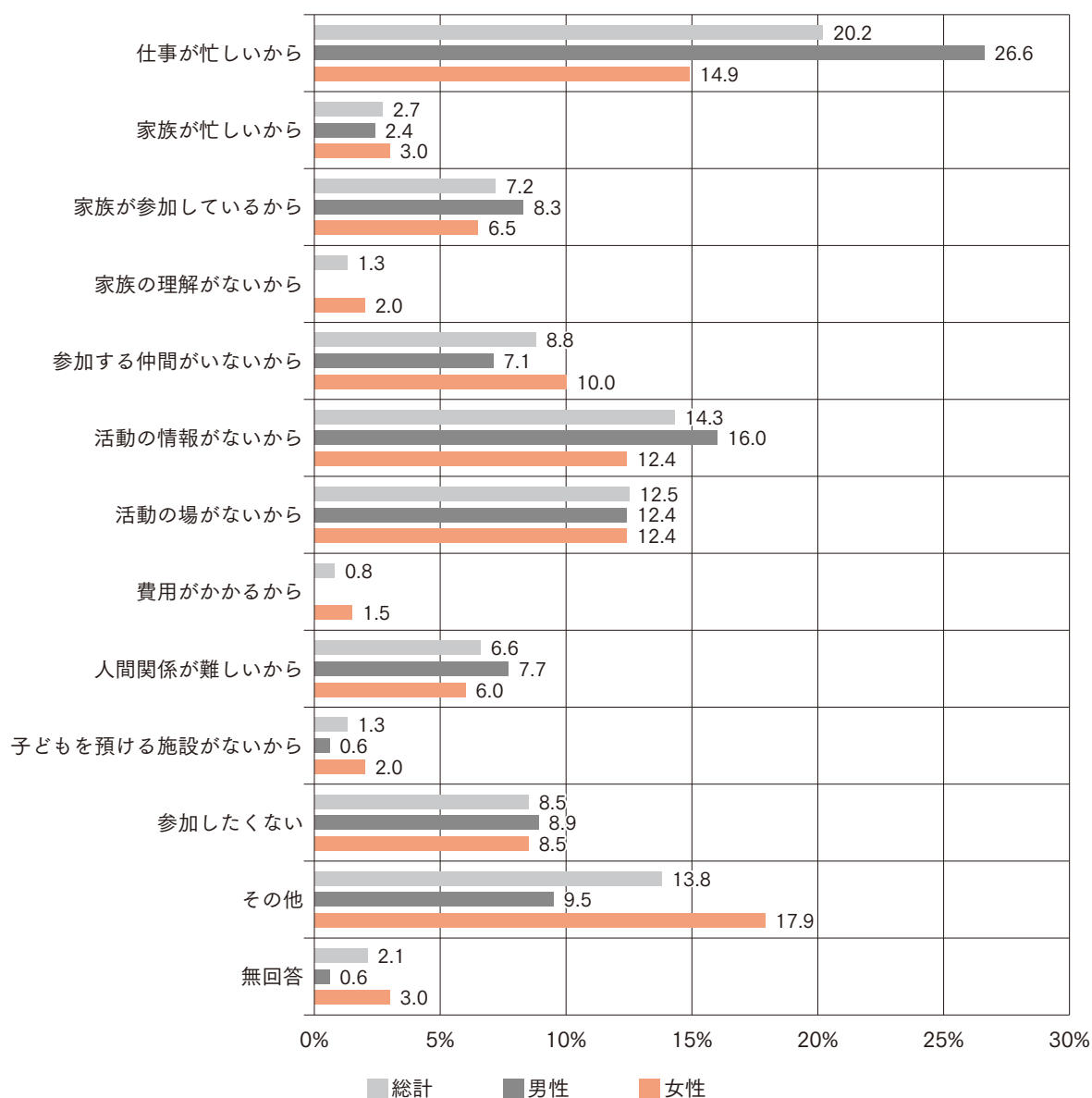
図12 どのような社会や地域の活動に参加していますか



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H26)

なお、「参加していない」と回答した人については、地域活動に参加できない理由の主なものは男女ともに「仕事が忙しい」「活動の情報がない」「活動の場がない」という結果でした。

図13 社会や地域の活動に参加できない理由



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H26)

そのため、地域活動に関する情報や機会の提供を積極的に行い、地域住民が世代・性別にかかわらず、連携・協働して子育て・介護・防災など、地域の人々が抱える課題を男女共同参画の視点を活かしながら、それぞれの能力を発揮して取り組み、解決していくことが必要です。